

生きる力

SHINGON

特集

お大師さまと

歩むことから始まる、

仏さまとの出会い

— お大師さまご誕生千二百五十年という

ご縁に感謝 —

生きる力 SHINGON

Vol. 113

真言宗智山派



弘法大師 空海
ご誕生 1250年
令和5年(2023年)



五宝山 新大佛寺

東海三十六不動尊霊場第二十八番札所／東海白寿三十三観音 第十四番札所／三重四国八十八ヶ所霊場第五十九番札所／伊賀四国八十八ヶ所霊場第四番札所／伊賀七福神巡り 福祿寿

東大寺の大仏さま（奈良の大仏）は、皆さまご存知ですよ。何度も参拝している」「修学旅行で参拝した」「行ったことないけど知ってるよ」という方がほとんどだと思います。では、大仏さまの正式名称をご存じでしょうか。東大寺は華嚴宗の大本山であり、その教えは『華嚴經』を根本としています。そして、『華嚴經』の中心的な仏さまが奈良の大仏である盧舎那仏（毘盧遮那仏）です。

東大寺は、聖武天皇の発願で、天平勝宝四年（七五二）に開眼供養会が行われました。後に複数回焼損したため、現在私たちが目にしている大仏さまは、江戸期（元禄五年（二六九二）開眼供養）に再建されたものです。その復興時のモデルとなったと伝わる大仏さまが、現在智山派の寺院に残されておりま。

今回の寺院探訪では、その大仏さまを参拝すべく三重県伊賀市の新大佛寺を訪れました。実は三重県には新大佛寺、そして塔頭（たつとう）（山内にある小寺院）の成願寺の二ヶ寺しか智山派の寺院はないのです。

新大佛寺は伊賀の山間に建ち、伊賀鉄道伊賀線の上野市駅よりバスで四十分程かかる場所にあります。バス自体も一時間に一本程しかありませんので、今回は車でお伺いしました。前日の春を思わせる暖かな日と打って変わって、取材に訪れた三月二日は、冷たい小雨がパラつく天候で、駐車場で待ち合わせたカメラマンはダウン



平成7年、「新大佛寺開創800年」「興教大師850年御恩忌」の記念事業として建立された大門（仁王門）。



智山寺院探訪スライドショー

掲載しきれなかった写真や見どころを動画で紹介しています

コートを着込んでいました。さすがにコートを着たままの取材は失礼かと、コートを車に残し訪れました。案の定その寒さが身に沁みましたが、その寒さも吹き飛ぶ素晴らしい寺院でした。

阿波の大仏さん

駐車場から見える立派な大門をくぐり、大門の横にある寺務所へうかがうと、ご住職が迎えてくださり、まずは大仏が祀られている宝蔵庫をご案内いただきました。一階には大仏建立当時の石製の台座が飾られています。獅子などが浮彫され、創建当時より一回り小さくされているそうですが、それでもその大きさに目を奪われます。そして二階に上がると、地元では「阿波の大仏さん」として親しまれている、高さ四・〇五メートルの毘盧遮那仏が中央に鎮座しています。向かって左には俊乗房重源上人座像、右には重源上人作の木像僧形座像が祀られ、重源上人作の五輪塔板塔婆が供えられています。すべて国の重要文化財に指定されており、その重厚さ、絢爛さに思わず手を合わせていました。

伊賀別所

治承四年（一一八〇）平重衡により奈良東

大寺は、大仏殿をはじめ伽藍の大半が焼かれてしまっています。そして翌年、重源上人は六十一歳で勸進職に任じられて、その後半生を東大寺の復興に捧げるのです。重源上人が東大寺大仏再建のために各地に設けた拠点寺院が七ヶ寺あり、東大寺七別所と呼ばれています。そのうちの一つ伊賀別所として上人が開山されたのが新大佛寺なのです。上人が建立された各別所は、丈六阿弥陀如来像の安置を基本とし、新大佛寺の大仏も当初は丈六阿弥陀如来立像（像高は約五・〇三メートル）と、観音菩薩・勢至菩薩の阿弥陀三尊像だったそうです。当時の姿を拝見できないのは残念ですが、実は新大佛寺で建立された阿弥陀三尊像と双壁をなした、阿弥陀三尊像が現存しているのです。七別所の一つ、播磨別所の浄土寺（兵庫県小野市 高野山真言宗）に、同じ仏師快慶が宋の仏画をモデルとし刻まれた国宝の阿弥陀三尊像が現存しています。

阿弥陀如来から毘盧遮那仏へ

新大佛寺も時代とともに幾多の盛衰をたどり、戦国時代の末頃にはかなり荒れ果て、江戸期の寛永十二年（一六三五）には、阿弥陀三尊像が倒壊されたと伝わっています。貞享五年（一六八八）、伊賀出身の松尾芭蕉がこの地を通りかかり、草に覆われ苔むした石の台



- ①石造基壇（重要文化財） 丈六阿弥陀如来立像の石製の須弥壇、宋国人の伊行末という石工の作。獅子文様が美しい。
- ②毘盧遮那仏座像（重要文化財） 阿波の大仏さんと親しまれている。阿波はこの地の地名から。光背の裏にも雲などが浮彫にされている。
- ③重源上人座像（重要文化財） 重源上人は13歳の時、醍醐寺で出家し、後に浄土宗の開祖法然にも学ぶ。学問より造寺造仏、道や橋の修復など作善活動の道を歩んだ。
- ④僧形座像（重要文化財）・五輪塔板塔婆（重要文化財） 重源上人自作の五輪塔板塔婆は表面に1036体の仏像、裏には宝篋印陀羅尼が彫られている。一刷りで千仏供養ができ、上人は空に向かって印仏をされていたと伝わる。

座を見て「丈六に かげろう高し 石の上」と詠まれています。

寛延元年（二七四八）、倒壊した阿弥陀如来の残された頭部に胴体部を補作し、毘盧遮那仏として今私たちが参拝している大仏さまが再建されたのです。現在大仏殿には、釈迦如来がご本尊さまとして祀られています。宝蔵庫には宝蔵庫から元の大仏殿へお戻りいただきたいとご住職は語っておられました。宝蔵庫に安置された大仏さまも荘厳ですが、やはり大仏殿にお戻りいただけたら、欄間に描かれ

る天女とともに、さらに、素晴らしいだろうと感じました。その日が来るのが楽しみです。

大仏さま、そして大仏殿の素晴らしさに圧倒されましたが、大仏殿内の奥にある護摩祈禱堂、岩屋不動尊も圧巻でした。大仏殿のご本尊さまを参拝し、そのままご本尊さまの裏に回るとそこが護摩堂となっています。護摩壇の奥、正面はガラス扉となっており、外には高さ六メートルに及ぶ石像のお不動さまが聳え立っているのです。しかし参拝席からは



- ⑤大仏殿ご本尊釈迦如来 大仏殿は間口6間半、奥行8間半の大仏様式。欄間に描かれる天女に目を奪われる。この奥に護摩堂がある。
- ⑥岩屋不動尊 導師の目線で撮影させていただいた。参列席からは残念ながらお顔まで見えない。
- ⑦松本昇正住職 悩みや苦しみがあってお寺に訪れた参拝者が、笑顔でお帰りいただけるお寺を目指していきたいと語られた。



その大きさのため、胴体部分、利剣や絹索りけん けんさくを持つ腕しか見え、お顔が見えません。しかし大丈夫です。護摩祈禱の際は内陣参拝ができ、お顔までしっかり拝見し、参拝できるそうです。

他にも現在本堂として使用されている上人堂や大師堂、鐘楼堂を始め、境内は十一棟もの諸堂からなり、山中には一キロに及ぶ西国三十三所霊場めぐりが整備されています。取材時もきれいに咲き誇った梅の花が迎えてくださいました。春夏秋冬折々の花々が咲き誇る新大佛寺へ是非ご参拝ください。

（智山教化センター所員／上村正健 撮影／竹本りか）



ACCESS アクセス

五宝山 新大佛寺

〒518-1417 三重県伊賀市富永1238番地

車：名阪国道南在家ICから約20分

電車：伊賀鉄道伊賀線上野市駅よりバスで約40分

今日の法語
「掌」たのころ

ほり い りゅうしょう
堀井 隆祥

(福井県坂井市

えんぶくいん
圓福院)

掌

掌とは「手のところ」を意味します。

手の内を明かす、手のひらを返すというように自らの心の内実を「手のところ」として表しています。

私たちが仏さまやご先祖さまに手を合わせるという姿は、まさしく仏さまやご先祖さまの「ところ」と今を生きる私の「ところ」をひとつに合わせる姿に他なりません。

掌を合わせ、仏さまやご先祖さまの真心を感じて、私の生きる力といたしましょう。 合掌





本修宗祖弘法大師御誕生千二百五十年慶讃法要供

お大師さまと歩むことから始まる、 仏さまとの出会い

—お大師さまご誕生千二百五十年というご縁に感謝—

弘法大師空海ご誕生1250年慶讃開白法要が、令和4年10月5日に勤修されてより、
令和5年の6月15日まで、総本山智積院ではさまざまな慶讃法要が営まれ、お大師さまへの祈りが捧げられます。

お大師さまご誕生千二百五十年

令和五年は、弘法大師空海（お大師さま）が
ご誕生されて千二百五十年という節目の年を
迎えます。

私たち真言宗の宗祖であるお大師さまは、
宝亀五年（七七四）六月十五日に讃岐の国（香
川県、現在の善通寺の地にてお生まれになっ
たといわれています。

ちょうどこの頃は、春に芽吹いた若葉が沢
山の光を浴びて緑に力強さが増し、青葉の盛
りを迎える時期になります。なお、真言宗中
興の祖である興教大師覚鑁上人のお生まれに
なったのが、嘉保二年（二〇九五）六月十七
日ということもあり、総本山智積院をはじめ
多くの寺院では、六月十五日にこの両祖大師
のご生誕をお祝いする「青葉まつり」が開か
れています。令和四年からお大師さまご誕生
千二百五十年をお祝いのさまざまな慶讃事
業が展開されてきましたが、令和五年の青葉
まつりがその集大成となります。

話は変わりますが、昔から「大師は弘法に
取られ、太閤は秀吉にとられ」といわれま
す。大師とは、朝廷から偉大な僧侶に送られ
るお名前「諡（おくりな）」のことで、日本には
これまで二十八人の大師が誕生しています。
ちなみに、日本で一番最初に大師号をいただ
いた方は、天台宗の伝教大師最澄上人です。

しかしながら「お大師さま」というと、弘法大師空海さまを思い浮かべる方が多いので、先のことわざを耳にするのだと思います。では、なぜこれほどまでにお大師さまは皆さまに親しまれているのでしょうか。そのことに目を向けてみると、自ずとお大師さまへの感謝の念が湧いてくるのではないかと思います。

人々を救うお大師さま

お大師さまは延暦二十三年（八〇四）、唐（今



お大師さまは、弥勒菩薩のいらっしゃる兜率天^{とそつてん}に赴かれ、弥勒菩薩がこの世に降りて来るときに、一緒に降りてきて、人々を救ってくださるといわれています。画／三船毅志

の中国）において師匠である恵果阿闍梨^{けいかあじやり}から真言密教の教えをすべて伝授され、日本に伝えました。その教えをもとに高野山で開かれたのが真言宗です。恵果阿闍梨からは、「真言密教の教えはすべてあなたに伝えたから、一刻も早く日本に戻り、人々を幸せにしないさい」という遺言をいただきます。その言葉を胸に、日本において人々の幸せのために尽くされました。紀伊の国（和歌山）の高野山や京の都に建つ東寺（教王護国寺）において人々の安寧を祈ったのはもちろんのこと、唐に渡った時に得

た当時最新の知識をもつて、灌漑用池の「満濃池^{のういけ}」を修築したり、庶民が無償で学ぶことができた学校である「綜芸種智院^{しゆげいしゅちいん}」を創建したりしました。宮中では国の安寧を祈る「後七日御修法^{ごにちみしほ}」も行われます。人々を救いたいと願うその思いは、晩年、高野山奥の院で営まれた法要「萬燈会^{まんどうえ}」にて「すべての人々が救われることこそが私の願いである」といった意味の祈願文を読まれました。このようにお大師さまが、人々の幸せを願って尽くされた活動のことを「濟世利人^{さいせいりにん}」といいます。

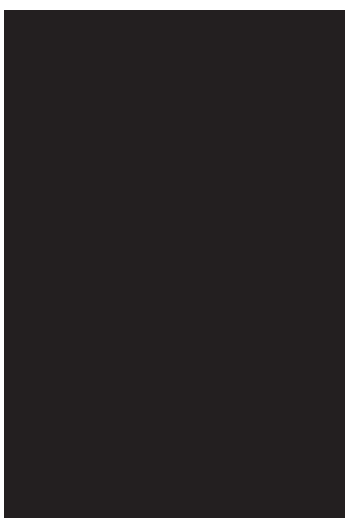
お大師さまは、承和二年（八三五）三月二十一日に六十二歳でご入定されます。ご入定とは、今でも高野山の奥の院で禅定に入られて、人々の幸せを願いつづけていることをいいます。またお大師さまは、「仏さまの世界から皆を見守っているから、私の名前を聞き、真言宗の教えをしつかりと守って精進しなさい」というお言葉も残されています。

このようなことからお大師さまは、仏さまと団体であり、すべての人々を救うために今でも私たちをお見守りくださっていると信じられています。つまり、真言宗を開かれた宗祖以上の尊い存在となっているのです。

お遍路さんとお大師さま

お大師さまをととても身近に感じられる体験

に、四国遍路があります。この四国八十八ヶ所霊場を巡る人を「お遍路さん」と呼びます。お遍路さんは菅笠を被り、背中にお大師さまの仏さまとしてのお名前である「南無大師遍照金剛」と書かれたおいづるを着て金剛杖を突き、各々が八十八ヶ所成満を目指します。「南無」は、あなたを敬いますという意味の帰依を表します。「遍照金剛」は、恵果阿闍梨からいただいたお名前で、大日如来という仏さまを表します。「遍照」は遍く照らすと読み、私たちを隅々まで明るく照らしてお見守りくださるという意味です。「金剛」とは、ダイヤモンドのように硬いもののことであり、その硬いもので私たちの災いを打ち砕いてくださいます。このように、常にお遍路さんを見守っていらっしゃるのがお大師さまなのです。それは、さまざまな体験の中から実感するものであり、つらい道中での体験や



四国遍路では、いつもお大師さまがお見守りくださり、ともに歩むことを実感しながら、長い道のりを進みます。写真提供／PIXTA



金剛合掌 この合掌は、両手の指を交互に交えて合わせます。指を交互に固く結ぶことで、仏さまとのより強い縁をいただく合掌です。

イラスト／長谷川優

「お接待」の優しさに触れることで得る感謝の気持ちなどから見出されます。ですから、実際に遍路をして、このような気持ちを得てみてはいかがでしょうか。このようにお大師さまがお遍路をしている私を、いつも見守ってくださると実感して巡ることを「同行二人」といいます。お大師さまのやさしさに導かれたお遍路さんは、手を合わせて「南無大師遍照金剛」とお唱えし、そこにお大師さまの面影を見出します。お大師さまに見守られていると感じることは、心に安らぎが生まれ、自身の生活が生き生きとしてくるのではないのでしょうか。



「私たちの目標」啓発ポスター

真言宗智山派では、「生きる力ー仏さまに祈り 仏さまと出会う」という目標をかかげ、仏さまに祈り出会うよろこびを体得していただく実践を推奨しています。

日々の暮らしとお大師さま

私たちは日々の暮らしでも、お大師さまに見守られています。「同行二人」は特別なことではありません。手に「金剛合掌」を結びお大師さまのご宝号「南無大師遍照金剛」をお唱えする。自分の暮らしが日々安寧であることを願い、手を合わせご宝号をお唱えした

目次

智山寺院探訪 五宝山新大佛寺	2
今日の法語（堀井隆祥）	5
特集 お大師さまと歩むことから始まる、仏さまとの出会い	6
お大師さまとご信仰（田村宗英）	10
梵字よもやま話（小峰智行）	11
智積院の修行生活（漫画・長谷川優）	12
御詠歌を、聴いてみよう、見てみよう（平川真海）	14
日本の四季を切り取る十七文字（星野高士）	15
総本山の便り	16
ニンゲンのつくり方（中嶋亮順）	18
ごくらくごく（三遊亭竜楽）	19
知っておきたい仏事 Q&A	20
読者アンケートから・おしらせ・編集後記	22
真言宗智山派出版物のご案内	23
寺院建築の心（菊池恭二）	24
十巻章—真言宗の教えを紐解く—（駒井信勝）	26
「ウェルビーイング」心豊かに生きる（渡邊淳司）	28
花に聞く 仏に聞く（佐々木隆元）	29
私のお大師さま ビジュアルで読む現代的性霊集 feat.Rieko（内藤理恵子）	30
十善戒と生きる力（佐竹隆信）	31

時、そこにはお大師さまがいらっしゃいます。皆さまの菩提寺にこの「私たちの目標」啓発ポスターが貼ってあったらよくご覧ください。そこには

「お大師さまは いつもあなたとともに
いらっしゃいます お唱えしましょう
南無大師遍照金剛」

とあります。お大師さまを感じて手を合わせる。その安心感こそが、皆さまの生きる力を育みます。（智山教化センター所員 倉松隆嗣）



弘法大師 空海
ご誕生 1250年

令和5年(2023年)

宗祖弘法大師ご誕生1250年ロゴマーク

表紙

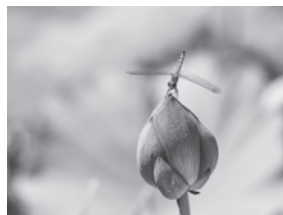
白川郷、夏の朝
岐阜県



夏の早朝、世界遺産・白川郷を見渡せる展望台を訪れた。前夜の雨の残りなのか、集落を囲うように連なる山並みから羽衣のような霧がなめらかにすべり降りてくる。稲の青がよりいっそう青々と鮮やかになった。

P5

蓮の蕾にトンボ
山形県



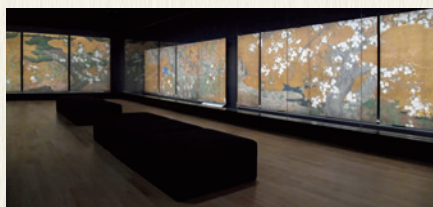
「日本の棚田100選」のひとつ、四ヶ村棚田の隣に、美しい蓮の池があった。よく見ると、蓮の花の上にはたくさんの蜻蛉が飛び交っている。真夏のうだるような暑い日だったが、すぐそこに秋の気配を感じた。

撮影・解説／竹本りか

「総本山智積院展示収蔵庫 宝物館がオープンしました」

長谷川等伯一門による「楓図」・「桜図」をはじめとした国宝障壁画群を適切なライティングにより彩り豊かに展示するとともに、「松に立葵図」が収められていた当時の大書院の様子を再現した展示も行います。

さらに、これまで非公開であった智積院が有する約八万点の収蔵品(宝物や高僧の著作などの貴重な古文書)を、季節に合わせ順次公開していきます。皆さまのご来館をお待ちしております。



拝観料	一般……………	500円
	中高生……………	300円
	小学生……………	200円
	(小学生未満無料)	
拝観時間	9:00~16:30	
	(最終受付16:00)	

【お問い合わせ】

真言宗智山派
教化部展示収蔵課

TEL 075-532-5655

京都 総本山智積院

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町964
TEL: 075-541-5361 FAX: 075-541-5364

写経のついで

毎月21日 13時より

於 智積院金堂地下ホール

(納経料千円・要事前申込定員50名)

智積院阿字観会

毎月12日

14時より(受付13時30分より)

※8月と12月は8日

於 智積院金堂地下ホール

(参加灯明料五百円・

要事前申込定員20名)

宿坊 智積院会館

一泊朝食付きプラン

9,000円から

(宿泊税・消費税込)

夕食別途3,300円から(消費税込)

ご予約・お問い合わせ

TEL 075-541-5363

・JR京都駅よりバス約10分

・京阪電車七条駅より徒歩約10分

※ご宿泊のご予約は、6ヶ月前の1日

より開始いたします。令和5年6月

現在、令和5年12月までのご予約を

受け付けております。

東京 総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-8
TEL: 03-3431-1081 FAX: 03-3431-0203

愛宕薬師ご縁日(毎月8日)

※8日が土日祝の際は第一金曜日

・大護摩供法要 12時より

・写経会(納経料千円) 14時より

6月8日(木)

8月8日(火)

※7月7日(金)は施餓鬼会法要(15時より)を行います。

やすらぎ寄席

毎月第3木曜日 18時30分より

於 本堂(木戸銭 千円)

6月15日 三遊亭

7月20日 談志一門会

8月17日 三遊亭

真福寺阿字観会

15時より

於 本堂(無料・要事前申込)

6月20日(火)

※7月8日は開催無し。

Instagram



総本山智積院



宿坊智積院会館

Facebook



総本山智積院